

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470201290		
法人名	有限会社 コーブンシャ		
事業所名	グループホーム ほのぼの 平尾の家		
所在地	三重県四日市市平尾町78-12		
自己評価作成日	平成28年10月21日	評価結果市町提出日	平成29年2月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/24/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kihon=true&JiyosvoCd=2470201290-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 28 年 10 月 9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の一員として、地域と支えあいながら、本人がこれまで培ってきた地域社会との関係の継続を大切にしていきます。
日々の生活においては、「いま、ここで」最善・最適と考えられる支援を目指し、利用者の方の
人権を尊重して、その人らしさをどう支えるかという視点を見失わずに支援していきたいと思
います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は集落の一面にある民家改造型グループホームである。周辺は畑や田んぼが広がり、交通量も少なく、地元の方々がゲートボールを楽しむ公園に面していて、散歩によく出かけている。事業所は地域の一員として地域に溶け込み、良い関係が築かれており、運営推進会議には家族や地域の方々の多くの参加があり、活発な意見も聞くことが出来る。理念「ゆっくり一緒に楽しく」「できないことを求めず出来る事を奪わず理にかなったケア」を居間に大きく掲げ、利用者と共に地域の理解と支援も受けながら安全で安心な穏やかな生活の実践を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の行事(ふるさと広場)への参加や散歩時の近隣住民の方との会話を通して、地域との繋がりを大切にしている。	安全・安心・穏やかにを踏まえた上で「ゆっくり一緒に楽しく」を理念と掲げ、常に職員と共に立ち戻って行動するように話し合っている。利用者も毎日時を見つけては読み上げる方がいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に一度の地域行事である「ふるさと広場」・「長寿会」に参加し、近隣の同世代の方や子供たちと楽しく交流している。	地域の色々な行事に招待席を作って貰って参加している。日常的に連絡を取り合っており、困ったことが出来た場合には相談をすればすぐに対応・解決して貰えている関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時の地域の方との会話や、地域の行事でふれあう機会があり、いつでも相談できるような雰囲気にも努め、その都度対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年六回「運営推進会議」を行っている。家族・区長・民生委員・行政及び地域の近隣の方にも気軽に参加して頂き、有意義な情報交換や家族の要望・意見を聞きサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は開催日時を固定し、家族へも毎回お誘いのはがきを送り自由に参加を呼び掛けている。自治会長や民生委員の他にも近隣の方々の参加を得て活発に意見交換ができています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から問題が生じた場合には必ず連絡し、指導を仰いでいる。また、問題のない時も「運営推進会議」等で近況報告やサービスの取り組みを報告している。	常に連絡を取っており、協力体制は出来ている。事業所の行事開催時にはボランティアの積極的な協力も得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや学習会を通じて、精神および身体拘束を行わない介護を徹底している。	健脚な利用者の家族の強い希望もあり、まだ玄関施錠が解決できていない。今は犬などの置物センサーなどの利用することにより、さり気ない出入り口の把握を模索中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対あってはならないという共通の認識を持っている。言葉を含め、その傾向がみられる時は、見過ごすことのない様、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については学ぶ機会もあるが、活用できる支援は現在行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族や利用者が十分納得されるまで話し合いを持ち、不安や疑問点が解決するまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から利用者や家族とは何でも話せる信頼関係を築けるよう心がけているが、意見箱を設置して苦情の申し出がしやすい環境作りに努めている。苦情相談窓口があることも伝えている。	運営推進会議に家族の参加を得ており、その場で色々の意見が直接聞け、出来る事はすぐに反映させている。室内歩行散歩の取り入れもその一つである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、代表者・管理者も交えたミーティングを行い、自由に意見が言えるような雰囲気作りに努め、そこで出た意見や提案を日々の支援に反映させている。	管理者も業務のローテーションに加わって夜勤もこなしているため、細かい点の問題提議や話し合いも良くでき、意見の反映もスムーズに出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者には日ごとの状況を報告し、職員の要望や意見、やりがい等を理解してもらえるように働きかけている。給与水準など企業努力のみでは、どうにもならない面もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者にはより良い日々のケアに活かせる研修や勉強会に参加できるような職場環境になるよう理解や協力を求めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最近、近隣施設が集まり「介護の手」を発足。連携しネットワークづくりや勉強会などの機会を設け、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人の困っている事、不安な事など思いを受け止め、安心されるまで話し合いを持っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時には十分な時間をとり、本人や家族の不安や要望などに耳を傾け、安心して入居できる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の話を聞き、状況を把握し、必要としている支援を見極め、他のサービスも含めて説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る事を見極め、一緒に進めたり、時には教わったりして、家族の一員として支えあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には、ゆっくり過ごして頂ける様配慮している。また、施設での生活状況を伝えながら、以前の様子もお聞きし、その人らしい生活をして頂ける様配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や馴染みの知人等の面会など、ゆっくり過ごして頂ける様配慮している。また、馴染みの場所への外出にも支援している。	自宅やお墓やよく行った喫茶店などは家族と共に出かけている。地域に溶け込むことで新しい馴染みの場所ができ、地元の方々との交流の場に呼ばれたり、呼んだり新しいたくさん行き来が生まれてきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないように席の配慮をしたり、職員が間に入ってよい関係が保たれるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	趣味や嗜好を楽しめる様に配慮している。また、思いに沿った暮らしが出来る様に常に本人と対話することで気持ちを聞き、興味関心などを探るようにしている。	夜間悪夢を見て部屋での就寝が難しくなる利用者に対して、本人の不安に寄り添いしばらく居間のソファで横になり次の排泄を利用して気持ちのリセットを図り、居室での眠りに繋げるなど一人一人の思いに寄り添っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からこれまでの生活環境などを詳しくお聞きし、本人にとってどのようなケアが適切なのか職員間で話し合い、見直しをして実践に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムや習慣を大切にしている。また、一日のうちで出来るだけ本人が活躍できる場を提供し、生き生きと生活出来る様に支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度、また状況に応じて職員間でミーティングを行い、カンファレンスをして、見直しがあれば変更する。面接時等、家族より意見などを聞き、介護計画の作成に反映させている。	職員はそれぞれ一人担当を持ち、毎月20日に全員参加でミーティング・モニタリング・カンファレンスを行い、活発な意見交換をして介護計画を立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌に記録したり、職員間の申し送りをしている。また気づいたことや個々にケアしたいこと等は連絡帳に記入し、情報を共有し実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病状の急変時、家族の対応が難しい時には職員が受診に同行している。また、日用品購入の代行等、柔軟にサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の支援を受け「ふるさと広場」「長寿会」等いろいろな行事に参加し、楽しんでいる。また、時々外食して豊かな暮らしを楽しめる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員、月二回の定期診療、年一回の健康診断を受けている。急変時にも対応可能であり、24時間体制で連携をとっている。※往診というのは急に悪くなった時に診てもらう事をいう。	毎週協力医の往診があり、利用者は2週間に1度診察を受けている。急変時も24時間体制での対応が可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医や協力病院の看護職には情報や気づきを詳細に伝え、相談しながら適切な医療や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院のケアワーカーと連携をとって情報交換に努めている。病院に出向き相談もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の在り方については、出来る場合・できない場合を入居時に話し合っている。また、入居時に他の施設の申し込みも同時にして頂くよう支援している。	入居時から終末期には病院や特養への移動を話し合ってきたので、今まで看取りはない。	非常勤ではあるが看護師の在籍もあり、かかりつけ医の24時間体制支援も受けられる状況にあるので、終末期の体制について本人や家族の安心感に寄り添うためにも、是非ゆっくりと継続的に検討を進めていただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の看護師に連絡し、応急処置の仕方・急変時の対応の指示を受けている。また、日ごろからいろいろな急変や事故を想定し、職員全員が対処できるよう話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練で職員全員が安全対策を身に付けて、地域との協力体制を築いている。	あがた地域の4施設が集まり「介護の手」を結成し、防災マップを作ったり、お互いに勉強会をしたりしている。当事務所は鉄筋であり、地区の方々の避難場所ともなっている。また、避難の手順の確認の再検討を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であることを常に頭に置き、挨拶や言葉かけには丁寧な言葉使いかつ温かみのある対応に心がけている。プライバシーに関しては利用者の人格を尊重し、細心の注意を図り接している。	現在利用者は9名全員が女性であり、ゆったりと一緒に楽しく穏やかな時が流れ、一人一人が尊重されているのが感じ取れる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一日の生活の中で本人が決定する場面を作っている。お茶・食事・レクリエーション・入浴等本人のその日の心身の状態を含めて希望を尊重して生活している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調をみながら支援し、意思や主張を優先したうえで、一人ひとりのペースを大切に過ごして頂ける様心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	体調や目的に応じて自由に身だしなみやおしゃれを楽しんで頂ける様支援している。施設での訪問理容も出来るが、行きつけの美容院があれば利用できる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや旬のもの、行事料理等、皆さんと一緒に考えて調理している。昼食も一緒に会話しながら楽しい雰囲気になっている。準備や後片付けも手伝って頂いている。	火・金に職員が買い物に行き、献立を考えて作っている。外食支援は年間行事に組み入れて年2回実施している。その他にも季節行事で「そうめん流し」などをボランティアの協力を得て行って喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して、主食・副菜は重ならないようにメニュー記録を見ながら、栄養のバランスも考え、一人ひとりの状態に応じた量にしている。 水分補給も随時行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの出来る力に合わせて、毎食後、歯磨き・義歯洗浄を見守り介助で清潔にして頂けるよう支援している。夜間は義歯は洗浄剤に浸けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々に応じて時間をみて声掛け・見守りでトイレでの排泄の支援をしている。	布パンツ利用が9人中3人あり、2人は自立である。少しでも布パンツ使用が続くように支援しており、排泄パターンを把握し、時間で誘導支援している。夜間ポータブルトイレ利用者が1名ある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認表を記入し、長期便秘の方には医師に処方された内服薬で調整している。食事や水分にも気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	二組に分けて一日おきに入浴している。本人の体調に合わせた支援を行っている。	午前10時から11時に4～5人が1日置きに入浴している。浴槽についでいるジャグジーや、庭先にできるゆずを使った季節湯などを楽しんでいる。拒否はない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は利用者の体調や希望に合わせて、TVを見るなどしてゆっくりとした休憩が取れるよう配慮している。夜間眠れない方には会話をもち、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	安全に服薬出来る様、日にち・名前を記入し、必ず見守りのもと確実に服用されたかチェックする。 薬の準備は職員二名で確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常会話の中から好きな事、得意な事を見つけ出し、一緒に行くことで楽しんだり、気分転換を図ってもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は毎日、その人に合わせた距離の散歩・買い物同行・季節に合わせた行事・外出支援を行っている。毎月の「ふるさと広場」にも外出している。	周辺の交通量は少なく、目の前の公園などを利用して毎日散歩に出かけている。また地区の行事には毎月全員で参加したり、年間行事に組み込んで食事会、ショッピングモールへの買い物、桜など季節を感じに外出をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお金は全員事務所で管理し、必要に応じていつでも使える様に支援している。一緒に買い物に行かれた場合はご本人に支払って頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば電話・手紙の支援をしている。はがき・切手等は預かり金から購入している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた花などを共用の空間に飾り、四季の変化を楽しみながら生活して頂ける様工夫している。毎日できる方には掃除をお手伝いして頂き、居心地よく過ごせるよう支援している。	古民家を改築した事業所であるが、食堂・居間・事務室が開放され、東と南から光が入り明るく落ち着きがある。玄関にはスロープ、廊下には手すりが設置され歩くには安心感があるが、少し狭さも感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各個人の席が決めてあるが、様子を見て席替えをしたり、誰とでも楽しく会話出来る様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には使い慣れた馴染みの物や、思い出の物を飾り、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	居室は広く、南が全面サッシとなっていて光が良く入り、家族など訪問の方とゆったりと過ごすことが出来る空間がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所には手すりを設置しており、安全に楽しく生活できるよう不備があれば直ぐ修理改善するようにしている。また、トイレや浴室など表示をし、分かりやすくしている。		